

様式 5

平成 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 12 月 25 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教授

申 請 者 名 渡邊晃一

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ 学会等運営・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	フォーラム「黒塚」 ～二本松・安達が原を起点とした、芸術家、文芸評論家、民俗学者による国際会議～
事業実施期間	平成 29 年 9 月 9 日～平成29 年 12 月 16 日
成果の概要	<p>黒塚(二本松・安達が原の鬼婆)の伝承を基に、芸術家、民俗学者・文芸評論家が集う企画を三つ開催した。</p> <p>1)「黒塚」の作品制作と展示 9月9日～11月23日 安達が原ふるさと村 福井利佐、岩根愛、月岡芳年、手塚治虫、夢枕獏</p> <p>2)「黒塚」シンポジウム 10月15日 安達文化ホール 夢枕獏、東雅夫、京極夏彦、横山幸子、渡邊晃一</p> <p>3)トークイベント+上映会「祀る・鎮める - 黒塚から」 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会 12月16日 賀茂御祖神社(下鴨神社) 渡邊晃一、赤坂憲雄</p> <p>フォーラム「黒塚」は、福島伝統文化である「安達が原の鬼婆伝説」をキーワードに、専門家と地域住民が意見を交換するなかで、東北文化の精神性・風土を探究し、震災復興に関わって地域文化の未来像を探っていく機会を得るものとなった。また、地域の人々が幅広い「芸術」に触れ合い、集い、交流する機会を設け、地域文化を活性化させる一役を担った。</p>

シンポジウム KUROZUKA

映画「黒塚 KUROZUKA」

製作：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
企画・美術：渡邊晃一

昔語り：横山幸子

パネリスト：夢枕獯、東雅夫、京極夏彦

10月15日(日) 13:00~

二本松市安達文化ホール

福島県二本松市油井字瀧石1-2 電話：0243-23-3721

入場無料

10時から会場入口で整理券を配布します。
※400席限定



新境地「黒塚」
映画社文庫 2009年2月26日第1巻
カバーイラスト：寺田暁也

夢枕 獯

作家。1951年、神奈川県出身。
東海大学文学部日本文学科
卒。1997年作家デビュー。
日本SF作家クラブ名誉会員。
日本文芸家協会会員。
「キマイラ」「魔獣狩り」「闇狩り師」「餓狼伝」「陰陽師」などで多くの読者を獲得。受賞歴：日本SF大賞、柴田錬三郎賞、泉鏡花文学賞、舟橋聖一文学賞、吉川英治文学賞を受賞。

2016年に、作＝夢枕 獯 絵＝山村浩二「ちいさなおおきなき」で第85回小学館児童出版文化賞を受賞。映画化された作品に「陰陽師」「陰陽師II」「大帝の剣」「エヴェレスト 神々の山嶺」等。2018年に『空海 KU-KAI』公開予定。歌舞伎などの舞台化された作品多数。



東 雅夫

アンソロジスト、文芸評論家。
1958年、神奈川県出身。
早稲田大学文学部卒。元「幻想文学」編集長、現在、怪談専門誌「幽」編集顧問。2011年、著書「遠野物語と怪談の時代」で日本推理作家協会賞受賞。評論家として「ホラー・ジャパネスク」「てのひら怪談」「文豪怪談」を提唱、「みちのく怪談プロジェクト」「ふるさと怪談トークライブ」などを推進する。著書に「文学の極意は怪談である」「百物語の怪談史」「妖怪伝説奇聞」、編纂書に「文豪怪談傑作選」「文豪怪異小品集」「文豪ノ怪談 ジュニア・セレクション」の各シリーズ「池澤龍彦玉手匣(エクリン)」「文豪妖怪名作選」、監修書に「怪談えほん」(妖怪えほん)がある。



京極 夏彦

小説家。1963年生まれ。
北海道小樽市出身。
世界妖怪協会、全日本妖怪推進委員会肝煎。古典遊戯研究会紙舞会員。お化け大學校・水木しげる学園教授。
1994年「姑獲鳥の夏」でデビュー。
1996年「魍魎の匣」で第49回日本推理作家協会賞長編部門受賞。
1997年「唾う伊右衛門」で第25回泉鏡花賞受賞。
2000年 第8回桑沢賞受賞。
2003年「覗き小平次」で第10回山本周五郎賞を受賞。
2004年「後巷説百物語」で第130回直木賞受賞。
2011年「西巻説百物語」で第24回柴田錬三郎賞受賞。
2016年 遠野文化賞受賞。

